

〈再 録〉

数種の早生樹材の野外耐久性

酒井温子・岩本頼子・中村嘉明¹⁾

木材保存 31(6) : 261-266 (2005)

奈良県森林技術センター明日香実験林において、早生樹材の野外杭試験を実施した。その結果、カメレレ (*Eucalyptus deglupta* Bl.)、ユーカリ (*Eucalyptus obliqua* L'Herit. および *Eucalyptus delegatensis*) の心材の耐久性は、スギ辺材と同等で「小」と判定された。一方、ファルカータ (*Paraserianthes falcata*) 心材および辺材の耐久性はさらに低く「極小」、逆に、ジェミリーナ (*Gmelina arborea* L.) 心材と辺材は、ヒノキ心材よりも耐久性が高く「大」と判定された。

キーワード：早生樹，耐久性，耐用年数，野外杭試験

¹⁾：現、ウッドモンド技術士事務所

出土木製品に残る劣化痕跡の解析 (II)

—奈良県桜井市小立古墳出土「木製祭祀具」とその他の木製品について—

酒井温子・村上薫史¹⁾・橋本輝彦¹⁾・今津節生²⁾

文化財と自然科学 51 : 65-75 (2005)

小立古墳出土木製品を光学顕微鏡を用いて観察した。墳丘上に立っていた木製品の断片には、細菌による劣化痕跡と、木材腐朽菌あるいはカビの多数の菌糸が観察された。周濠で発見された木製品では、細菌による劣化痕跡とともに、一部の部位において、木材腐朽菌あるいはカビの多数の菌糸が観察された。また軟腐朽菌による劣化痕跡が見つかった部位もあった。細菌の中には、生育する際に酸素を必要としないものもあるが、軟腐朽菌、木材腐朽菌およびカビは、生育する際に水と酸素を必要とする。これらの好気的な微生物の存在は、木材のその部位がかつて長期間土に接していたことを示している。以上から、墳丘上における木製品の古代の設置状況が明らかとなった。

キーワード：出土木材，劣化，祭祀具

¹⁾：桜井市教育委員会²⁾：奈良県立橿原考古学研究所